

学生レポーター
が見た！



見て・知って・好きになる！

埼玉モダンたてもの散歩



会席料理 二木屋（さいたま市）



2014年8月 訪問
埼玉モダンたてもの学生レポーター
青山学院大学文学部 丸谷 奈央

閑静な住宅街に佇むこちらの建物は、鳩山一郎内閣で厚生大臣を務めた小林英三氏が所有していました。現在は孫の玖仁男氏が会席料理店として利用しています。とても時代を感じる店構えですが、開店は1998年。実は意外と新しいんです。

ここに注目！①

英三氏は国会議員になる以前、川口で鋳物工場を経営していました。その際製造していたのが、このような籾殻竈（もみがらかまど）。ご飯がおいしく炊けるため、売れ行きは大変好評だったそうです。

ちなみに右の写真につけられた説明書きは、この店のオーナー、玖仁男氏によって書かれたもの。相田みつをさんのような、味わい深い文字です。店内には他にも、玖仁男氏の書いたものがたくさんあります。ぜひ探してみてください。



こちらはもともとお茶の間だった場所。壁を取り払い、現在ではメインダイニングとなっています。庭の緑がよく見える、開放的で気持ちのいい空間です。

室内から見た庭の様子。季節によって異なる表情が見られます。取材に伺った8月下旬は、百日紅の花がキレイに咲いていました。



ここに注目！②

二木屋を訪れたら、頭上もじっくり見てみましょう。天井や欄間も、時代を感じさせるつくりです。

一番広い部屋の壁には、英三氏直筆の書も。「春花秋実」と書いてあります。

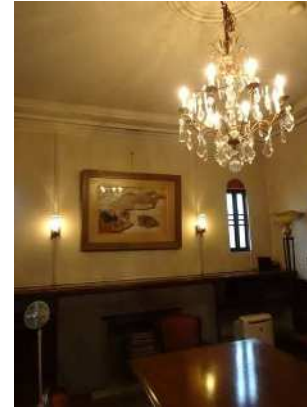




こちらは一番広い、40畳のお座敷です。昔はホテルのように大勢が集まれる場所がなかったため、政治家の会合などに用いられていました。

このお座敷の装飾は「室礼（しつらい）」と呼ばれるもの。お客様に季節ごとの風情を楽しんでもらえるようにと、オーナー自らが工夫を凝らしてデザインしています。写真の室礼はねぶたがモチーフ。夏の熱気を残しつつも、涼しげな秋の訪れを感じさせます。

また、二木屋では薪能の上演を行っており、その回数は日本最多を誇ります。このお座敷の天井の高さと幅は武家屋敷と同じづくり。ゆえに織田信長が見ていたのと同じ目線で、能舞台を鑑賞できます。



この洋間はもとは応接室でした。現在は結納の際の顔合わせなど、特別なときに使われることが多いのだとか。壁には、英三氏が厚生大臣であった頃の貴重な写真が飾られています。不思議と「和」の空間に溶け込んだ、ハレの日にふさわしいお部屋です。

ここに注目！③

洋間にあるフランス人形は本物のアンティーク。購入時に傷んでしまっていた洋服は、お客様のご厚意により、制作された時代と同じスタイルで直されています。



さらに店内には、このお店のミニチュアも飾られており、こちらもお客様にいただいたものだそう。二木屋が多くの人に愛されているということが、よく伝わってきます。